

海のいのち

第一次指導

(児童は、鉛筆を一本出して、筆入れは机の中へ入れ、学習準備を整える。先生は座席表を見て、児童の名前を確かめられる。)

○ 皆さん、読んでみました。教科書ね。読んでみた人、手を挙げてください。読んでない人(二人挙手)もあつた。では、読んだ人に一つ聞きます。おもしろい話だなと思つた人。

(挙手なし)

○ 気持ちが悪くなるようなおもしろい話だと思わなかつたね。今日と明日と明後日、三時間勉強したらいくらからおもしろくなるかもしれない。

○ さあ、挨拶をしましょう。お昼前だから、おはようございますと言うんだそうです。では、元氣よくご挨拶しましょう。手は下におろして。おはようございます。

おはようございます。

一 よむ

○ では、鉛筆を出しているね。読む順番に番号を書きます。  
(区画)

1 七十二ページ 初め 父も

2	七十三ページ	十四行目	中学校を
3	七十六ページ	一行目	でしになつて
4	七十七ページ	一行目	ある日
5	七十八ページ	一行目	いつもの
6	八十ページ	一行目	もう一度
7	八十二ページ	四行目	やがて

○ さあ、あなた1番。立つて大きな声で読んでくださいよ。2番はあなた。

(番号に沿つて順繰り読みの七人と個読の一人を確認する。続けて、明日、明後日の読む八人を確認する。)

○ あまりおもしろくないんでね、ゆっくり読んでください。どんなお話なのか。すらすらいってしまうとどんなお話か分からなくなってしまうよ。一番目の人が終わりそうになったら二番目の人が立つて、次々読んでください。では、一番の人から。

(子どもたち七人、ゆつくりと読む。)

○ 本を置いて。手は下の方へ。すると、聞いたことがぱつと頭の中に入るのです。

二 とく

(板書 海のいのち)

○ こういう題です。海のいのちという題なんです。ちよつと分からない。

○ 題はついていますけれどね、誰のお話か分かりますか。出てくる人いっぱいあるが、主人公は誰だ。

太一という人です。(板書 太一)

○ 太一という人のお話なんです。こう考えれば考えられる。太一という人のいつからいつまでのお話が書いてあるか。始まりは太一さんが何だった頃の話か。

(座わったままつぶやく。)

○ 分かったら手を挙げて。一人だけか、後の人は。

子どもの頃。

○ 子どもはいい。子どもの時からいつまでのお話かというんだよ。子どもは分かる。

(板書 横一直線)

○ 子どものところから始まって、ずうつとどうなるまでのことが書いてある。(板書 子)奥さんがどうなった。何になっていた。

美しいおばあさん。

○ おばあさんになっているから。奥さんがおばあさんになっていたら、太一さんは何になっているの。

おじいさん。

○ おじいさんになっているでしょう。太一の子どもの時から、おじいさんになるまでのお話があるの。(板書 おじいさん)

太一という人は、職業は何ですか。仕事は。

漁師。

○ 漁師。何の漁師か分かりますか。

もぐり漁師だと思います。

○ もぐり漁師は、お父さんがそうだった。お父さんはすばらしいもぐりの漁師だった。波の激しいところでも、どぶんともぐって捕ってくる村一番のもぐり漁師だった。太一という人は。もぐり漁師だったか。

一本釣り。

○ 一本釣りの漁師だった。一本釣りをさせたら、村で何番目の漁師さん。村で何番目。

一番目。

○ 一番目。村一番の釣り漁師。おじいさんになったら、村一番だったか、違ったか。年取ってだめになったか。おじいさんになっても村一番だったか。十番目ぐらいか。

村一番になっています。

○ 村一番であり続けた漁師さん。そんな立派な漁師さんになったのは、誰かの影響があるのです。世話になった人たちのおかげで、一生おじいさんになっても村一番の漁師で過ごしたのです。その影響を、誰の影響を受けたかを聞いてみますよ。一番初め。

(板書 横線に区切りを書き入れる。)

1 2 3 4 5 6 7 の番号を書く。)

○ 子どもの頃に大きな影響を受けました。誰の影響を受けたか。

与吉じいさ。

○ 1番目だよ。

お父さんだと思います。

○ ここは、お父さんの影響を受けたところ。(板書 父)

○ ところが、このお父さんが亡くなってしまった。誰の影響を受けたかを2番目。分かるかな。

与吉じいさ。(板書 与)

○ 与吉じいさの影響を受けたのです。2と3は与吉じいさの影響を受けたところ。4番目、分かるか。4番を開いてみて。母。

○ お母さんですね。(板書 母)

○ 5番6番二つは、何の影響を受けたか分かりますか。

クエだと思いません。

○ クエの影響を受けた。(板書 クエ)魚からね。この魚のおかげで、大変立派な漁師になれた。人からも影響を受けたんだよ。ここはクエから影響を受けたよ。

○ 最後は難しいなあ。最後は太一が誰の影響を受けたか、分からない、ですね。分からないから書かないでいます、7番は。

〈手引き〉

○ さあ、父の影響を受けたおかげで、太一はすごいことを言うようになったんだよ。どんなことを言うようになったか。

○ 与吉じいさのおかげで、このところ(3番を指しながら)死んでからこんな言葉を言いました。与吉じいさがいないと言えない。

○ ここ(4番を指しながら)は、お母さんが言ったからこうしてみよう。太一の言葉は書いてないよ。書いてないけれど、短い言葉からどうしようと思ったか探してください。ここ(5番)はクエから何の影響を受けたか。ここ(7番)は分からないから○にして。(板書 ○)

○ それではね、ノートを開いて。

○ 読んで1のところ。お父さんの影響を受けて何と言っているか、それを分かったらノートに書いてください。

○ 1番だけやってみますか。何と言うようになったかな。ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。

○ 長いからね、そこを短くして、ぼくは漁師になる、それだけ書

いてください。

(板書 ぼくは漁師になる)

○ 与吉じいさのところはねえ、3のところから探してください。

○ 与吉じいさのおかげで、こんなことが言えるようになった。3のところから探して書いてください。長いところは短くしてください。

○ 3のところ書きましたか。書いた人は、4。  
(一人一人のノートを机間指導)

三 よむ

四 かく

○ 自分で書いたものは大事にしてください。読んで書くのは、そこでやめてください。全部閉じて、本もノートも 机の中へ入れてください。(全員が鉛筆を片付けるまで待たれる。)

五 よむ

○ 誰からどんな影響を受けて、どんなことを言ったか、どんなことをしようと思ったのか。先生の書いたもの(板書)で勉強します。

○ 次の人。立って、書いたところを読んでください。

(個読 一人)

六 とく

○ この人たちの影響で、おじいさんになっても村一番の漁師になりました。その元はここ(1番2番を指して)にあるんだよ。

○ 一番小さい時に影響を受けたのは、お父さん。その次は、与吉じいさです。ここは、何年生の時か分かりますか。与吉じいさの影響を受け始めたのは。

中学三年生。

○ 中三の時です。(板書 中3 赤チヨーク)

○ 漁師になって、一緒に仕事を教えてもらって、とうとうこんなことを言えるようになったのです。この海で生きられます。誰かの世話にならなくても、ちゃんと生活ができるようになります。

○ お母さんが心配して、お母さんの悲しみが分かったんで、悲しませないようにしよう、背負おうというのです。お母さんを悲しませてはいけないから背負おう。

○ これは何才頃の話か。子ども(板書 1番を指して)。ここは何才と書いてないが、太一は何になつていた。

若者に。

○ 若者になっていました。若者になつた時に、お母さんを悲しませないようにしようと思つたが、抑えきれられないものがあつたんです。クエに会わなくちゃいけない。クエに会うというのは、誰のことが頭から離れないの。

お父さんだと思います。(板書 父に○ 赤チヨーク)

○ クエのために死んだお父さんのことが頭から離れないね。クエを探して、会つて、会つた時はクエを何しようと思つたか。クエに会つて、手に持った物は。先の尖つたの。

もり。

○ 刺すんだよ。これで何をしようとしたか。  
死ぬ。

○ 父の敵で、殺してやろうと考へた。殺そうとして刺し始めたらどうなるのか。太一の命がどうなると思ひますか。お父さんのように。

死んでしまう。

○ 死んでしまうかもしれない。そうすると、これは大変なんだ。上に上がらなければ死んでしまう。クエに教えられたんです。ああそうだったのか。殺さないで済んだんだ。

○ 明日はね、ここ(6番)、殺さないで済んだところを勉強します。今日帰つたら、また読んでください。

(板書 6に○ 赤チヨーク)

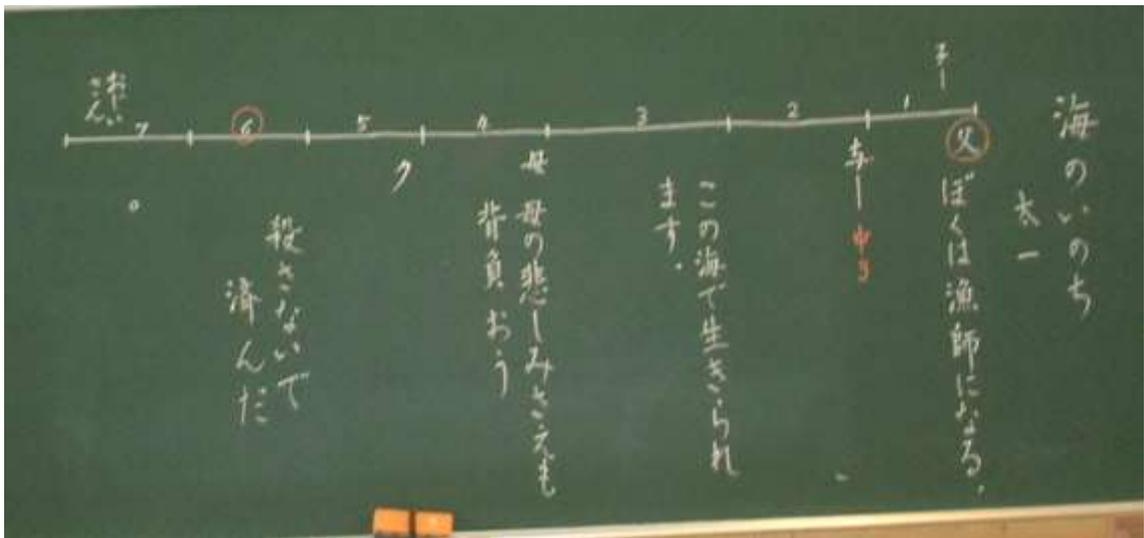
## 七よむ

○ それでは読んで終わりにしましょう。背中を立てて。

指音読 二回

○ 今日帰つたら読んでください。明日はまた勉強しましょう。

(札)



## 第二次指導 第一時

(鉛筆一本を今日書くところのノートにはさんで、学習の準備をする。)

○ それでは、ご挨拶をしてから始めます。手を下ろしてご挨拶をしましょう。昨日も言いましたが、おはようございますで始めます。おはようございます。

おはようございます。

### 一 よむ

○ 昨日うちへ帰って読んでみましたか。読んでみた人、手を挙げてください。(ほとんどの児童が挙手する。) ほう、よかったね。読んでいなかった人も心配するなよ。よく聞いていてください。すると分かるんです。それでは今日はあなたから七人、順番に読んでください。はい、それでは、聞く準備をしてください。お願いします。

(順繰り読み七人)

○ はい、置いてください。さすが六年生ですね。この長い、難しいのをしっかり読んでくれました。みんなの読んだのを聞いていたらね、先生が考えていたのよりも、ああこういう大事なことを書いているんだなとよく分かりました。すばらしい読みでした。ありがとうございます。

### 二 とく

○ さあ、昨日ね、太一の勉強をしましたよ。太一はおじいさんになっても、村一番の釣りの漁師でした。それで一生暮らすんでし

よう。こんな立派な漁師になれたのは、誰のおかげだったかな。一番の恩人は誰でしたか。

お父さん。

○ 漁師になれよと励ましてくれたお父さんも大事だな。本当の先生、釣りの先生は誰だ。

与吉じいさ。

○ 与吉じいさというの。背中がこう曲がったね、(先生、腰を曲げるポーズをしながら) 釣り漁師のおじいさんです。

(板書 船の絵)

○ 船かどうか分からないけれども、与吉じいさと太一が乗った船だと思ってください。先生は与吉じいさ。弟子は太一君ですよ。船に乗って出かけました。どういう海のところへ、(板書 波線一本) どんな海のところへ連れて行かれましたか。この海はどんな海。これ流れだよ。流れだよ。どういう流れの海へ連れて行かれましたか。(板書 波線 をもう一本重ねる。) 波の穏やかな、静か海のところへ連れて行かれたか。流れの速いところへ連れて行かれたか。どっちだ。

流れの速いところだと思います。

○ 流れの速いところへ連れて行った。流れが強い、速いところは、船がどうなるんだろう。ピタッと静止しているか。

揺れる。

○ 静止していないで揺れるでしょう。静かなところだったら動かない。ここで釣りをするんだっらいいよ。こんな(先生、手首で大きく波の揺れるポーズをしながら) 揺れるところで釣りをするんだよ。それが太一の学校なんです。毎日、与吉じいさ先生の

ところへ行つて、激しいところで釣りのお勉強をしたんです。それで、とうとう若いうちに村一番といわれるようになった。それがずっと死ぬまで村一番であり続けたでしょう。だから恩人は、与吉じいさ。

○ ここまで描いたが、次、考えてくださいよ。これ(船の絵)の下の方を考えてくださいよ。

(板書 直線 下の方に一本)

○ これは、海の底とを考えてくださいよ。与吉じいさと一緒に激しい潮のところで釣りをしました。その下に何かあったよ、その下に何かあるか分かっているかな。

鯛。

○ 鯛は海の上の方、釣りをしに行くんだよ。底にいるものがあるよ。

クエだと思います。

○ お父さんが(板書 クエ) 死んだ辺りなの。このクエのおかげでお父さんが命を落としたんだよ。その上で漁の勉強をしたんだよ。与吉じいさはここで漁をしているということをお父君は分かっていたと思う。分かっている、先生、お願いしますと、ここで勉強したんだよ。そういうお話。

○ さあ、太一君は与吉じいさのおかげで立派な漁師になることができたが、小さい時から死ぬまで頭から離れなかった人があります。誰のことが頭から離れなかったか。

お父さん。

○ お父さんのことです。お父さんとは、子どもの頃に別れたからよく分からなかったが、二メートルもあるクエを捕ってくるお父

さんです。もぐっていった、何メートルあるでしょうね。すうつと行って、大きなのをしとめて、ぐつと上がってきて船に揚げて、そして帰ってくる。そういうお父さんの姿を見て、「よし、僕も漁師になる。」と、そう思ったそのお父さんのことが頭から離れなかったんだ。

○ お父さんを殺したクエにも会いたい。お父さんがどんなところで亡くなったんだろう、これも見たい。ここも考えたい。クエに会うことができましたか。できたか、できなかったか。この上の海だけで一生終わりましたか。このクエに会うことができましたか。

できたと思う。

○ できましたよ。簡単でなかったよ。何年ぐぐって会えましたか。一年間ぐらい。

○ 一年間、毎日のようにぐぐったんだね。探して探して、探して探して、三百何日もぐぐったか分からないけれども、とうとう会えました。

〈手引き〉

○ このクエに会って考えたことがあるんです。どんなことを考えたんだろうか。それをきょうは勉強します。何番目に書いてあるかというところ、クエを探したのは何番目ですか。開いてみてください。夢が実現したのは何番目のところ。何でもありません。1、2、3、4、5、6、7、番号を打ったでしょう。そのうちの何番目。

5番目だと思います。

○ 5番目。探して、探して、一番先にクエの何を見つけたのか。

尾っぽか、ひれか。

青い宝石のような目です。

○ 目を見て、あ、これだ。海の中ですからね、見つけたからといってもね、そのままそばに寄ってじっとしているわけにはいかない。息をしなければいけない。また上がったり下がったりしてクエに会って考えたところがあるんです。探したところは5番目。よく考えたところは次の6番目にある。

○ 6番目のところを開いてください。6番を書いてもらいます。全部でなく、ここから書いてください。そこを開きましたか。6番のところ。前から三行目の一番下の「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだ」とから、「水の中で：」の文は書かずに、「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」までノートに書いてください。

### 三 よむ 四 かく

この魚をとらなければ、  
本当の一人前の漁師  
にはなれないのだと、  
太一は泣きそうに  
なりながら思う。

もりの刃先を足の方に  
どけ、クエに向かって  
もう一度えがおを作っ

た。

「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」

(板書を終えた後、机間指導)

○ 全部閉じて、本もノートも鉛筆も机の中へしまってください。

## 五 よむ

○ 手を下ろして。立って読んでください。

個読 一回

## 六 とく

○ 意味の分からない言葉はありますか。もし「もりの刃先」とは、何をする道具。

魚を突く道具。

○ 魚を突く道具です。魚を殺して漁をするための道具です。刃の先が尖っているのね。(もりで魚を突くポーズ)

○ ここだね、「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだ。」と書いてあります。一人前の漁師になるにはどうすればいいの。

クエを捕ることです。

○ このクエを捕らなければなりません。捕るためには、さっきのもりで刺して、殺して、引き返してこなくてはならない。

○ 昔、これをやった人あるね、このクエに対して。誰がやったの。

おとう。お父さん

○ おとう、お父さんがやったんだよ。おとうがやってどうなった。水面上がれなくなつて、海の中で息ができなくなつて、死んでしまいました。

○ 結局死んでしまったんだね。この魚を捕れば一人前だよ。だけれども捕るとなるとお父さんの二の舞だよ。ということが書いてあるんだよね。(板書を指しながら)「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師はなれない。」この魚を捕ると、お父さんのように息絶えて死んでしまうかもしれないんだよ。

○ 二つに分けてみます。

(板書 括弧)

( 区分二つ 黄チヨーク)

○ 前と後で、太一の変わつたところがあるでしょう。何が変わつたんですか。

初めはクエを殺そうとしたけれど、お父さんだと思つて殺さなかつた。

○ こっち(前の括弧)では、この魚を捕つて殺してしまうぞと思つたの。でも、こっち(後の括弧)にはないね。お父さんよ。

(板書 おとう に傍点 黄チヨーク)

○ あと、まだ違うところがあります。何でもありません。(自分の顔を指さして)顔が変わっているでしょう。そっちは何顔。

泣きそうな顔から笑顔。

○ 笑顔だよ。(板書 えがお に傍線 黄チヨーク)

○ こっち(前の括弧)は何顔。  
泣き顔。

○ 泣き顔ね。(板書 泣き に傍線 黄チヨーク) 泣きそうになったから。こっちは悲しくて悲しくて涙が出てくるんです。こっちは笑顔。この魚を捕らなければと思ったら悲しくなって泣けてきたのです。死んだお父さんのことが頭にぐっと出てきて、これをつら死ななくちやならんのかなあ。泣き顔になった。

○ まだ違っているところがあるでしょう。もりの刃先を考えてください。

(板書 もりの刃先 に傍点 黄チヨーク)

○ ここ(後の括弧を指して)では、もりの刃先はどっちを向いているの。

足の方。

○ 足の方へ退けた。用がないよ。こっち(前の方の括弧)はどこへ向いているの。

クエの方です。(板書 魚 に傍線 黄チヨーク)

○ クエの方に向かってる。初めはこれを捕らなければ一人前になれない。でも、お父さんのことを考えたら、そう簡単にはいかない。一人前にはなりたいが、やれない。顔が泣き顔になったよ。そしてよく見ておいたら、よく見たというのはクエの何を見たのですか。悲しくなってじっと見たものがあります。そしたら、ついに見えました。(板書 おとう に小さい○ 黄チヨーク)

クエのおだやかな目だと思えます。

○ 目を見たのです。目を見たら、小さい時に見た、誰の目を見出したのか。

おとうの目。

○ おとうの目を思い出したの。あ、これは、おとうだ。気持ち

がらつと変わった。それで殺さないでもどつてくるの。この目になかったら、あるいは格闘していたかもしれない。格闘して、第二代目おとうと墓に書かれたかもしれない。命がなかったら、魚は捕れないです。そういうとつても大事なことを教えたのは誰なの。

クエ。(板書 クエ を四角で囲む 黄チヨーク)

○ クエですよ。大事なことを教えてくれる魚は、ただの魚でない。

海の命ではないのかなあ。

○ 海で一番大事なものとそう思って、すうつと上がったきたんだよ。そういうお話が書いてあります。

## 七 よむ

○ 読んで終わりにしましょう。背中をちゃんと立ててください。

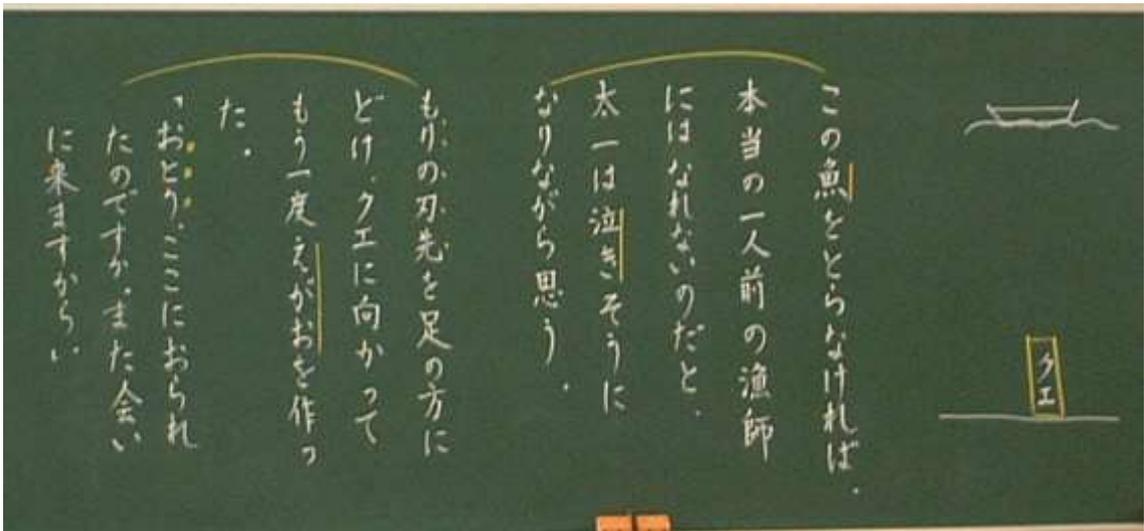
そして深呼吸をして、声を出すんだよ。

指音読 一回

○ 今日帰ったら、また読んでみてください。

○ 明日は、最後のところをします。

(礼)



## 第二次指導 第二時

- おはようございます。  
おはようございます。
- 二日間やりましたね。難しいところをがんばってきました。今日一時間で終わります。しっかりとやりましょう。一日で終わります。用意して、次の人から読んでください。鉛筆を今日書くとこるに入れて準備してください。(学習の準備をする。)
- 一 よむ
- では、あなたから立って読んでください。後の人はしっかりと聞いてください。  
(順繰り読み七人)
- はい、ようし、本を置いて。最後の読み、前の二日も立派だったけど、今日の人もしっかりと読んだね。
- 二 とく
- さあそれではね、昨日のおさらいをしますよ。
- クエを探して一年。とうとう見つかりました。何でこれが探しているクエだと分かったかな。漢字一つですよ。クエの何で分かったの。  
目。
- 今、目を描いてみます。クエの目は丸いです。  
(板書 瞳を二つ描く。青チヨーク)
- 中心のところは、瞳の真ん中は何色だったかな。

青色。

○ 真ん中だよ、真ん中。

深緑。

○ 深緑ね。深緑がないので、薄緑で描いてみます。

(板書 小さい○の中を 薄緑色チョークで塗る。)

○ ここ(大きい円)のところは何で描けばいいか。色まで気を付けなかったか。何の真珠か。

黒い真珠です。

○ 黒い真珠はここ(小さい円)のところね。真ん中。ここ(大きい円)の周り、瞳の一番奥のところは黒いっていうか、深緑っていうか。あまり絵は上手ではないが、黒い真珠のような目だね。

(板書 二つの大きい○を青色チョークで塗る。)

○ 後見えたのは口が見えたんだよ。口が見えて、歯が見えている。何のような歯ですか。

刃物のような。

○ 刃物のように尖った。口があるんだよ。口がくるんだよ。それから刃物のような口の脇で動いているものがあつたな。これ何。

えら。

○ (えらのポーズ) えらが動くと、酸素のいっぱい入った水を吸ってはグーツと吐いていきます。動くと周りの空気がばがばと(手を動かして)動いていく。

○ このクエ(板書 クエ)の目を見てね。初めはクエだと思った。じつと見ているうちに何の目に見えてきた。変わったよ。

お父さんの目。

○ (板書 父) クエの目が、お父さんの目に見えてきた。お父さ

んの目のように見えたなら、考えが変わりましたよ。クエの目を見た時にはこうしようと思ったの。ところが、お父さんの目に見えたら変わったよ。どう変わったか。本を見ても書いてないよ。クエの目を見た時に、太一はどうしようと思ったのか。

もりで刺して殺そうと思った。(板書 殺)

○ 殺そうと考えたでしょう。殺せば村一番の漁師だと言われるんです。クエの目を見た時に、殺して村一番だと考えたんだよ。それが、そう見ているうちにふっと父の目が変わったんだよ。これ(板書の 殺 の字を指す)がどう変わったか。

殺そうとは思わなくなった。

○ 殺さないで、また来ますよ。(板書 殺さない) 殺さない。百人十度考え方が変わったんです。

〈手引き〉

○ 殺そう、殺そう。村一番になろうと考えた太一が、ずっとこの目を見ているうちにこう変わった。その後の太一がどういう漁師になったか。今日はそこを勉強します。

○ 最後の7番のところ。太一のことを書いてあるところを書いて勉強します。どこから書けばいいですか。太一の考えがちやんと分かれるところ、二つに分かれていますね。前の方か後の方か。

後の方だと思います。

○ 後の方。太一は村一番の漁師であり続けた。そこからおしまいまで全部書いてください。

### 三 よむ

### 四 かく

太一は村一番の漁師

であり続けた。千びきに一びきしかとらないのだから、海のいのちは全く変わらない。

巨大なクエを岩の

穴で見かけたのに

もりを打たなかった

ことは、もちろん太一

は生がいだれにも

話さなかった。

(板書を終えた後、机間指導)

○ 全部閉じて机の中へ入れてください。

## 五 よむ

○ あなた、立って黒板に書いてあるのを読んでください。

個読 一回

## 六 とく

○ 難しい言葉は何でしょうね。

○ 村一番の(板書 村一番 に傍点 赤チョーク)、村一番の漁師であり続けたといっています、村一番の漁師ですよと言ったのは誰ですか。自分で言ったのか。

与吉いさんだと思えます。

○ 与吉いさ。与吉いさ生きていますか？

はい、最初に。

○ ずうつと前だったら言ったかもしれないね。誰が村一番だと言った。

作者が。

○ 作者が言ったのかな。作者が書いたからそうだと思ったのかな。村の人。

○ 村の人でしょ。太一が言ったのではないのですよ。太一はここで(クエ 殺さない を指して)放棄した。クエを殺さないという事は、村一番であることをやめたんです。

○ そこで村一番ですよと言ったのは、自分でないの。(板書 村に小さい) ○ 赤チョーク)村の人がそう言ったんだよということ。

○ ところで、この海のいのちというのは何なの。

(板書 海のいのち に傍点 赤チョーク)

○ 「千びきに一びきしかとらないのだから、海のいのちは全く変わらない。」って書いてあるんだよ。

クエのこと。

○ クエのこと。ここよ、「千びきに一びきしかとらないのだから、海のいのちは全く変わらない。」って書いてあるんだよ。

魚の数。(板書 魚の数 赤チョーク)

○ 魚の数。もう一つ発見させておきたいのがこっち(後の括弧)の方。巨大なクエだよ。(板書 巨大なクエ に傍点 赤チョーク) 岩で見つけたのにもりを打たなかったです。そうすると、どうして巨大なクエにもりを打たなかったのだろうか。巨大なクエにもりを打たなかったというのは、巨大なクエは何だったからかな。お父さん。

- 父だと思ったからだね。(板書 父 赤チョーク)
- 太一はこの(二とく)で学習した板書を指して)事件があつてから、ずうつと死ぬまで村一番であり続けたのです。

(板書 続 を○で囲む。赤チョーク)

- 今はちよつとお休みではなくて、ずつとこの事件があつてからは、太一は大したものだと。村一番であり続けたのです。
- その続けられた理由がこつち(板書 あり続けた。の後の全文章を指して)に書いてあるの。ここで一つ、こつちで一つ。

(板書 区分二つ(千びきに一びき) 変わらない。

(巨大なクエ) 話さなかつた。)

- これ(前の括弧)は絶対変わらなかつたよ。死ぬまで。
- それから、こつち(後の方の括弧)も変わらなかつたの。だから、あり続けたの。変わらなかつたのは何、守り続けたのは何ですか、これは。これだけは絶対破ることはなかつた。何をあり続けたのですか。

千びきに一びきしかとらなかつた。

- 千匹に一匹しか捕らないというのは、(板書 千びきに一びきしかに傍点 赤チョーク)、これは誰の教えか。

与吉じさ。

- 与吉じさの教えなのです。中学三年生で弟子入りした時のお師匠さんである与吉じさの教えのこと。これは絶対曲げない。一匹しか捕らないというわけじゃないよ。与吉じさは何匹捕ったんだね。

二〇匹。

- 二〇匹捕るとやめてしまった。魚はいるんだよ。いつも捕らな

い。何でもかんでも捕つてやろう、漁獲高日本一だなんてね、そんなことは考えないの。これで終わりよ。年取つたからではないんだよ。若い時の太一、年を取つてからも変わらなかつたの。これが本当の漁師です。海で生きる漁師はこれです。

- こつち(前の括弧)は与吉じさの教えのことを守つたこと。
- こつちは(後の括弧)誰が教えたのですか。これも、もう二度とやらなかつたのです。変わつていないのがあります。今もずうつとやらなかつたことがあります。

巨大なクエを岩の穴で見かけたのにもりを打たなかつたこと。

- もりを打たなかつたです。(もりを打たなかに傍点。赤チョーク) 殺して村一番になろうというクエは絶対打たなかつた。
- これは誰が教えたのか。そんな漁師ではだめだよ。おとう。

- (板書の 父 を指して) 教えてくれたんじゃないの。ずつと昔に死んだお父さんが教えてくれたんだよ。それをここ(二とく)で学習した板書を指して)で気がついて、その後守り続けた。(板書 続 を指す)だから村一番であり続けたのじゃないか。

- 今、こういう漁師さんがいるんだろうか。皆さんの家で漁師さんはありますか。ある。

(挙手 なし)

- ない。太一君ね、中学三年生で漁師になろうとしたんだよ。そして、苦労して苦労して、こんな経験をして村一番になつたんだ。こういう漁師さん、いるかいけないか、私は聞いたことがないけれど。ずつとクエを殺さなかつた。(つぶやき)

○ そういふ漁師さんいるかな。

## 七よむ

○ さあ、読んで終わりにしましょう。大きな声ですよ。そのためには背中をスッと伸ばして、大きく息を吸って、頭の上から声を出します。

指視音読 一回

○ もう一回景気のいい声を聞いて帰りたいなあ。もう一度お願いします。

指音読 一回

○ よく考えました。三日間勉強をしましたが、いい勉強ができました。しっかり勉強してくれました。

○ それでは終わりますよう。

(礼)

